

藤原竜也インタビュー／音楽劇『ガラスの仮面』続編決定!

DANCE PERFORMANCE

2010-2011 Batsheva Dance Company / Hofesh Shechter / dancetoday2010
Anne Teresa De Keersmaeker + Jérôme Bel + Ictus / Condors

INDEX

Saitama Arts Theater Press NO.26 Mar.-Apr.

- ESSAY** 03 池田扶美代+アラン・プラテル+ベンヤミン・ヴォルドンク
『ナイン・フィンガー Nine Finger』
岡田利規
- PLAY** 04 『ムサシ』 ロンドン・NYバージョン
藤原竜也 インタビュー
- PLAY** 06 『ムサシ』 解剖 戯曲と美術
- PLAY** 08 彩の国ファミリーシアター
音楽劇『ガラスの仮面』 続編決定!
- SPECIAL** DANCE PERFORMANCE 2010 - 2011
- DANCE** 10 バットシェバ舞踊団『MAX』
- DANCE** 12 ホフェッシュ・シェクター
『Political Mother』
- DANCE** 14 Dance Lineup 2010.9-2011.1
dancetoday2010 / 3Abschied / コンドルズ
- MUSIC** 16 ピアノ・エトワール・シリーズ
Vol.13 - Vol.15
- MUSIC** 18 新日本フィルハーモニー交響楽団
クリスティアン・アルミンク(指揮)
南 紫音(ヴァイオリン)
- 20** EVENT CALENDAR & TICKET INFORMATION
イベント・カレンダー 2010.3.15-2010.5.31
前売りチケット発売情報(～2010.5.15)
発売中公演情報
- 23** THEATER BRIDGE
劇場からのご案内
- 24** 劇場に遊ぶ、劇場で出会う

No.26



岡田利規 © Nobutaka Sato




© 美内すえ / 白泉社




© Nero © CarlFox




© Regina Mierzwa © Danny Willems




近藤良平 © HARU © K.Miura




© HARUKI © Kiyotaka Saito




© HARUKI © Kiyotaka Saito



© K.Miura



池田扶美代 + アラン・プラテル + ベンヤミン・ヴォルドンク
『ナイン・フィンガー Nine Finger』 2月6日公演より

岡田利規

あるアフリカの少年兵の目から見た戦争の凄惨な現実、を描く小説を基にして作られた、というふれこみのこの舞台は、しかし、舞台上に戦場のセットがしつらえられているわけではない。舞台の上には一本のスタンドマイクと、人がすっぽりと中に入れてしまっただけの大きな段ボールの箱と、くたびれたマットレスのほかは、何も無い。その空間でなにか具体的なシーンが演じられる、ということもない。出演者は男性の俳優が一人と、女性のダンサーが一人、合わせてたったの二人で、俳優はときに素っ頓狂な声を織り交ぜて、ときに激しく身体を用いて、小説をもとに俳優が書いたテキストを発する。ダンサーはその俳優と、ときにコントラクトをとり、ときにはまるで無関係に、舞台上で踊る。戦闘や強姦といった暴力を連想させるような動きであることもある。でも、明らかにそうだと感じられることは、ほとんどない。

わたしたち観客は、この舞台を見ていると、想像力が自然と動きはじめる。戦争の現実へと向かう、そして、こうした事態が今このときも進行しているはずのアフリカという場所に向かう、想像力である。

舞台上で戦争の現実をやって見せるのではない。『ナイン・フィンガー』は、舞台上で行うパフォーマンスを通して、戦争を、アフリカを想像することを、絶えず促し続けるのである。舞台を見ることを通して、舞台の先にあるものを見るように促すこと。つまり、舞台の上を見ることが、舞台の上を見ていないことになること……。それは、演劇がないうるもつとも本質的なすこいことの一つだと、わたしは思う。

上演中、ほぼ全編にわたり、鳥のさえずりの効果音が流れている。のどかさや平和をイメージさせるそれが、かえって明確に、わたしたちの思いを戦争に、アフリカの現実に、馳せさせる。

この音は、実際には聞こえることのないさえずり、だろうか？ あるいは、悲惨な現実であるにもかかわらず朝になれば聞こえてくるさえずり、なのだろうか？

おかだとしき◎演劇作家、小説家、チルフィッシュ主宰。05年「三月五日」で第49回岸田戯曲賞を受賞。07年デビュー小説集『わたしに許された特別な時間の終わり』を発表し、翌年第二回大江健三郎賞を受賞。09年10月@HAU劇場(ベルリン)との共同製作で「ハット・ペーパー・ライアー」を上演し、そのお別れの挨拶を世界プレミア上演し、同作品で世界11都市でのツアーが決定している。また、10年2月最新作『わたしは無償な別人であるのか?』を発表。



—まず、昨年の初演を経験した感想を聞かせてください。
井上ひさしさんの新作というのも、僕は初めてでしたし、小栗旬君とがっちり芝居をするのも初めて。吉田鋼太郎さんや白石加代子さん、素晴らしい先輩にも囲まれていました。こんなカンパニーと仕事ができるのは、非常に恵まれた環境だったなと思います。

—台本が毎日、少しずつしか届かなかったんですね。不安は？
なかったですね。先が分からないのに、芝居を組立てていくという経験はすごく新鮮でしたね。ただね、ラストの1週間は本当に、大変だったんです。小栗君と2人で午前中から集合して稽古をしましたし、初日もロビーで16時まで稽古してたんですよ。お互いに「絶対にトチるなよ」と言い合って(笑)。本番中に自分の台詞をひとつひとつ、「今の台詞、言えた!」と、思いながら芝居をするのは、初めてだったかもしれないです。皆もある種の危機感を持って臨んでいましたから、いい緊張感の中で、奇跡的な初日を迎えたなあとと思います。

—井上さんの笑いの部分については、苦労したりとかは？
すごく面白かったです。特に5人6脚のシーンは楽しかったな。僕たち俳優が好き勝手にやりました。

新しい作品に取り組む 気持ちで始めたい

藤原 竜也

Interview

昨年、大きな話題を呼んだ『ムサシ』が、早くも再演される。しかもロンドン、ニューヨークでの公演も決定！
さいたま芸術劇場から世界へ羽ばたく作品が、またひとつ、生まれた。今回は台本に若干の改訂を加え、キャストも一部、新しくなる。新『ムサシ』にかける思いを、藤原竜也に聞いた。
取材文 沢美也子

—今回は台本が改訂されていますが、新『ムサシ』で楽しみにしていることは？
勝地涼君、六平直政さんが加わるので、どう新しいものが生まれてくるのか楽しみです。「新しいメンバーが入って」という言い方は、僕は好きじゃなくて。僕らが去年やっているから得をするとかではなく、全員で新しいカンパニーとして、同じ土台からスタートしたいなと思います。新しい作品をやるという気持ちでいますね。時間がなかったので、もうちょっとやりたいことができたはずという思いは、きっと蛭川さんもあると思うので、今回、より完成度は高く、もっと面白くなるんじゃないかなと思っています。



—武蔵役としての成長は、どのように計画中ですか？
武蔵は決してブレない男のイメージが僕の中ではあります。ちょっとした所作でも、気持ち的な部分でもブレはいけなくて、どっしり構えている男なんですね。小次郎は全く対照的です。風のように自由でかっこいい。その対照が面白いと思うので、それを勝地君とうまく出していけたらなと思っています。

—武蔵のような、一つのことを極めることに、憧れる気持ちはありますか？
ものすごくありますね。ただね、面白いことがあって。殺陣の先生に「どこからでもかかって来たいよ」と言われても、動けないんですね。勝てないって思うし。それで、「気」を応用している先生に会いに行っただんです。北京五輪のソフトボール・チームに教えたりしている先生なんです。そこで教わったのは、剣を持った時に、気を上げるのではなく、臍下丹田に気を集中して、姿勢を保つこと。姿勢がしっかりしていれば、自分を大きく見せられるし、動きもスムーズになると教えられて、とても役に立ちましたね。
殺陣の國井先生はものすごく厳しいから、改めてご指導を受けたら、武蔵像に近づけるかな。

—海外公演に期待することは？
井上さんの面白い言葉遊びが、どこまで通じるのかなという不安はありますが、言葉が通じなくても、心を伝えることはできると思っています。国境を越えて、この作品がどう評価されるのか、とても楽しみです。

Profile

藤原竜也 ふじわら たつや
1997年『身毒丸』で初舞台を踏む。以後『ハムレット』『近代能楽集』など数々の蛭川演出舞台に出演。また野田秀樹演出『オイル』『ロープ』、栗山民也演出『かもめ』などの舞台や、映像でも活躍しており、映画『デスノート』『カイジ』は大ヒットを記録した。2004年には紀伊國屋演劇賞個人賞、朝日舞台芸術賞山修司賞、読売演劇賞優秀男優賞・杉村春子賞など、数々の賞を受賞。今年2月に主演映画『バレット』が公開された。

勝地涼 かつぢ りょう
2005年『亡国のイージス』で第29回日本アカデミー賞新人俳優賞を受賞。映画『リライ・シュアのすべて』『空中庭園』『東京タワー オカンとボクと、時々、オトン』『少年メリケンサック』、テレビドラマ『東京 DOGS』大河ドラマ『篤姫』など多くのヒット作へ出演。舞台出演作品は『シブヤから遠く離れて』『KITCHEN キッチン』『カリキュラ』のうさぎ歌舞伎『好婦姉』ほか。2010年夏には小栗旬初監督映画『シュアリー・サムデイ』が公開予定。

鈴木杏 すずき あん
96年に『金田一少年の事件簿』でドラマデビュー。映画界でも目覚ましい活躍を見せ、『Returner リターナー』では第26回日本アカデミー賞新人俳優賞と話題賞をW受賞。若手トップ女優の一人として幅広く才能を発揮し続けている。また、03年に『奇跡の人』のヘレン・ケラー役で初舞台を踏んだ。主な舞台出演作品に『ハムレット』『鶴姫城の七人』『白夜の女騎士』『SISTERS』ほか。映画では『花とアリス』『監督ばんざい』『椿三十郎』など。

六平直政 むさか なおまさ
劇団状況劇場を経て、87年新宿梁山泊旗揚げに参加。映像、舞台を問わず幅広く活躍している。伊丹十三監督、深作欣二監督映画に数多く出演する。近年の主な出演映画作品に『アキレスと亀』『私は貝になりたい』『20世紀少年第2章・第3章』『GOEMON』『花の生涯〜梅蘭芳』ほか。また『魔王』『JIN-仁-』などテレビドラマも多数。舞台に、蛭川幸雄演出では『マクベス』『欲望という名の電車』『数原稜枝』『表裏源内蛙合戦』『冬物語』ほか。

吉田鋼太郎 よしだ こうたろう
シェイクスピア・シアター、東京杏組を経て、97年に劇団 AUN を結成する。蛭川幸雄演出作品に数多く出演し、『タイタス・アンドロニカス』『オセロー』ではタイトルロールを演じた。その他、栗山民也、長塚圭史、G2など様々な演出家の舞台で活躍。第6回読売演劇大賞男優賞、第36回紀伊國屋演劇賞個人賞を受賞。2010年夏には小栗旬初監督映画『シュアリー・サムデイ』が公開される。

白石加代子 しらいし かよこ
早稲田小劇場(SCOT)にて数々の伝統的舞台上に主演し、89年に退団後は舞台を中心に映像でも活躍する。蛭川幸雄演出作品では『夏の夜の夢』『身毒丸』『グリークス』『ペリクリーゼ』『天保十二年のシェイクスピア』などに出演。そのほか宮本亜門演出『メアリー・シュアット』、野田秀樹演出『虎〜国姓爺合戦』、野村萬斎演出『国盗人』、長塚圭史演出『ビューティ・クイーン・オブ・リナーン』など、現代を代表する演出家の作品に出演。

●●●● PLAY ●●●●

『ムサシ』ロンドン・NYバージョン

【日時】5月15日(土)～6月10日(木) 全32公演

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【作】井上ひさし(吉川英治「宮本武蔵」より) 【演出】蛭川幸雄 【音楽】宮川彬良

【出演】藤原竜也 勝地涼 鈴木杏 六平直政 吉田鋼太郎 白石加代子 ほか

【チケット(税込)】好評発売中

一般・メンバーズ：S席 10,500円 / A席 8,500円

5月	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
曜日	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
12:30	●							●	●						●	●	
13:30			休演						休演								休演
17:30	●														●	●	
18:30																	

6月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
曜日	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
12:30					●					
13:30						休演				
17:30	●									
18:30	●									

※本公演はメンバーズポイント対象外となりますので予めご了承ください。

Photo:青柳聡 スタイリスト:小林新(高橋事務所) ヘアメイク:赤塚修二(メイキャプルーム)



ロンドン・NYバージョンをさらに面白く観るために『ムサシ』を見る、『ムサシ』を読む

2009年、『ムサシ』は、爆笑のなかにもずっしり重い「報復の連鎖」を問う、見応えのある舞台になった。その美術を手がけた中越司にそのプランニングの背景を、そして演劇評論の今村忠純氏に戯曲を解剖していただいた。



ギャグの力 —— 『ムサシ』を解剖する。

文= 今村忠純 [大妻女子大学教授]

巖流島の決闘は、武蔵の權の木刀が小次郎の頭を砕いて落着した。ところが小次郎には、まだかすかに息があった、生きていた。六年後の夏。小次郎は果たし状を懐中にして武蔵の前に現れる。場所は鎌倉の源氏山・宝蓮寺、ここの寺開きの作事を務めたのが武蔵だった。竹林を背にした橋掛り式の屋根つき廊下が正面を横切り、上手側に庭に大きく迫りだした八帖の客間、いちばん手前は広い庭、と書きの指定する禅寺のセットは、そっくり能の本舞台と橋掛かりを表しており、同時に『ムサシ』の劇構造を示唆している。前後二場に分かれた能や狂言は、何ものかの化身の前シテ(主人公)が中入りを経て再登場し、後シテとなって、その本体を現すという構造をもつ。『ムサシ』には、この複式夢幻能の構造が引用されていた。この世からあの世にわたされた掛け橋／橋掛りを通してここにやってきた二人の旅人が、武蔵と小次郎。宝蓮寺の寺開きの参籠禪が始まる。沢庵、柳生宗矩などになりすまし、二人の旅人を待ち受けていたのは、この世からあの世に住みかえた民百姓や断食僧で、つまらないことで二つとない命を落としたことを悔やみ、成仏かなわず苦しんでいる亡霊だった。かれらは、命を粗末にしたわが身の上をかえりみて、武蔵と小次郎

のそのどちらも無駄死させてはなるまいと思う。そこで二人の果たし合いをやめさせようとの手この手の奇想を必死でひねり出すことになる。例えば五人六脚。宗矩と沢庵らが、武蔵と小次郎に間に挟んで足を縛れば、気持を一つにしないかぎり前にも後ろにも進めない、やがて二人の根深い対立も友情に変わるというのだ。また剣術の根所は足の運びと腰の据え方にあると教える小次郎の運歩稽古が、いつの間にか、一同うちそろってのタンゴ風の軽快なリズムを刻む歩行禪になっていく。このようなギャグ(笑わせる工夫)が、武蔵と小次郎の険しい反目を少しずつ溶かしていく。そしてギャグの力が、恨みの鎖を断ち切る力になっていくのだ。ギャグの力とは、演劇の力の別言である。二人を戦わせまいとして、死力を尽くして仕組んだ「お芝居」に感化された当の武蔵と小次郎は、「からだをいとえ」「おぬしも達者でな」とそれぞれの身体を案じながら旅立っていくのだ。

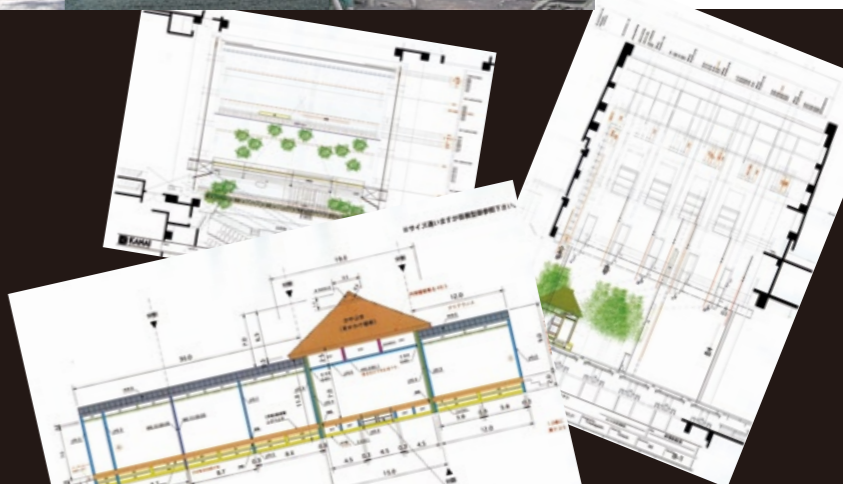


© 渡部 弘

P7上: 2009年初演の舞台より「五人六脚」の場面
P6上・P7下は初演の舞台。下の舞台図面、模型舞台を経て実際の舞台のセットができる。竹林、お寺の写真は、鎌倉を訪れて中越司が実際に撮った風景。

鎌倉の竹林、禅寺を歩き、感覚をふくらませた

中越 司 (舞台美術)



稽古開始直前の戯曲のト書きには舞台は鎌倉の禅寺とあり、お能の所作が劇中にあるということなどはわかっていたので、とりあえず稽古場では基本になる、分割できるお寺をつくりました。稽古に入って台本が半分ぐらいのころに鎌倉の井上さんのお宅に向う機会がありました。お宅の縁側から見えたのはまさに竹林で、「(舞台のイメージは)この竹林の感じですよ」と言われ、ちょうど風もあり、サーと竹林がゆれていたりして。竹林そのものは台本を読んでセットにすることはできますが、やはり土地の空気や風を感じたり、土を踏みしめ、お寺も歩くと、五感で感じるようにセットプランを立てるのに大いに役立ちました。

苦勞したのは、「竹林の中の小さな寺」をどう表すかでした。特にさいたま芸術劇場はタツバ(舞台天井までの高さ)があるので、竹林を天井近くまで飾り、寺に屋根をつけて、広く高い舞台空間を埋めました。それと、本舞台と同じスペースが舞台奥にあるので、冒頭の海の決闘シーンのあと、あたかも竹林の中に入っていきように、舞台奥から徐々に竹林が近づき、ズームインするような形で寺が見えてきて、新しい寺が構築されていくような演出になりました。台本の遅れでいえば、終幕近くに「結界石」が境内にあり、武蔵がその石を崖下に落とすやいなや、皆が亡霊で登場するというところが突然

出てきました。もうセットの劇場仕込みは終了していましたが、「えっ、この石はどうする? どういう石で、どこに置くの?」みたいなことになり、すぐに調べて絵を描いて業者に発注して、翌日朝には石がきちんと置かれたというようなひと幕もありました(笑)。いずれにしても舞台美術は、それ自体が作品ではなく、戯曲や演出があり、役者が立って初めて生きるものですし、照明によって印象も大きく変わります。それに蜷川さんの場合、ビジュアルの美学の世界観を、いかに具現化するかでもあります。その為にも多くの人々の協力は大きいです。『ムサシ』の美術もそういうことを観客の方にくみ取っていただければと思います。



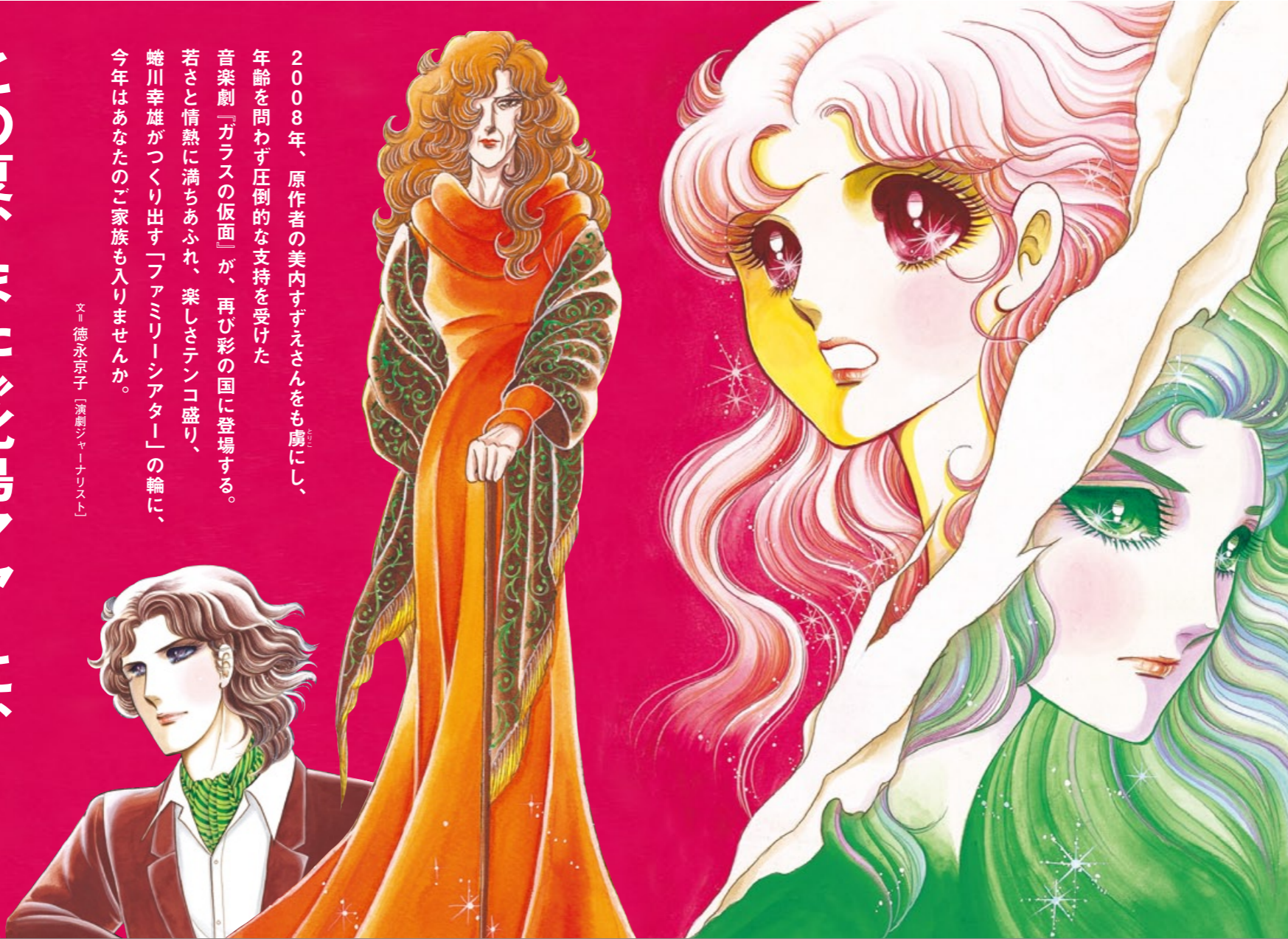
ガラスの仮面

音楽劇

この夏、また北島マヤに、
月影先生に出会える幸せ

2008年、原作者の美内すずえさんをも虜にし、年齢を問わず圧倒的な支持を受けた音楽劇『ガラスの仮面』が、再び彩の国に登場する。若さと情熱に満ちあふれ、楽しさテンコ盛り、蛭川幸雄がつくり出す「ファミリーシアター」の輪に、今年はおあなたのご家族も入りませんか。

文 徳永京子 [演劇ジャーナリスト]



彩の国ファミリーシアター 音楽劇『ガラスの仮面』(2008年) ©大原野行

Profile



大和田美帆 (おおわだ みほ): 北島マヤ
東京都出身。2003年にミュージカル『PURE LOVE』(小池修一郎演出)のヒロイン役でデビュー。以後、舞台を中心にテレビ、CM等幅広く活躍。主な出演作は、舞台『ファンタスティクス』『恋愛戯曲』『阿国』『寝坊な豆腐屋』『恐竜と隣人のホルカ』『テーブルナー』『EVIL DEAD THE MUSICAL ~死霊のはらわた~』『ウーマン・イン・ホワイト』、映画『今度の日曜日に』『天使の恋』等。5月に舞台『夢の泪』への出演が控えている。



奥村佳恵 (おくむら かえ): 蛭川亜弓
大阪府出身。6歳からクラシックバレエを学び、2008年に音楽劇『ガラスの仮面』の蛭川亜弓役に抜擢され、初舞台を踏む。続けて09年には、蛭川幸雄演出、さいたまゴールド・シアター『95kgと97kgのあいだ』に出演。最近ではテレビドラマ『エンゼルバンク〜転職代理人』にレギュラー出演する等、活動の幅を広げている。



夏木マリ (なつき まり): 月影千草
1973年歌手デビュー。80年代より演劇へも活動の場を広げ、紀伊国屋演劇個人賞等受賞多数。93年から続くコンセプトアルバム『印象派』は国内外で高い評価を得て、演出にあっている。06年『ジビエ・ドゥ・マリ』を率いてブルースバンドを結成。07年パフォーマンス集団『MNT』を立ち上げ、後進の指導にも務めている。演劇・音楽・映像・カルチャーとジャンルレスに活躍中。蛭川作品では『なぜか青春時代』『天保十二年のシェイクスピア』『ハムレット』『リチャード三世』『近代能楽集〜弱法師』に出演。2009年One of Loveプロジェクトで途上国の支援活動を開始。2010年モンブラン国際文化賞受賞。近著に『泣き面にマリ』。

原作者も絶賛の第一弾を上回る続編

コミックの世界を超えて舞台上で躍動する“ガラかめ”

年に8本も9本も舞台の演出を手掛け、そのいずれにも新たに課題を自らに課して取り組む蛭川幸雄。だが、この数年で特に悩み苦しんだ作品を選ぶなら、間違いなく08年の音楽劇『ガラスの仮面』がランクインすると思う。

「人気コミックが原作」「音楽劇」「家族揃って楽しめるファミリーシアター」——彩の国さいたま芸術劇場が企画した『ガラかめ』の構成要素は、ひとつひとつの口当たりが優しい。極端なことを言えば、これらを組み合わせれば、すぐにでも楽しい舞台が出来上がるような気に見える。

ところが現実には真逆だった。企画がスタートしてすぐ、蛭川は大きなプレッシャーを背負う。取材のたび、記者や編集者ら演劇に精通する関係者から「原作の大ファン」と打ち明けられ、「あのエピソードは上演

するのか?」「上演するのなら、あのシーンはどうやって?」という熱のこもった質問をされる状況が続いたからだ。少女マンガの金字塔であり、日本の演劇ファンのバイブルであることは覚悟していたものの、予想以上に強力な原作人気を肌で感じ、また話を聞くほど、ひとりひとりがもつイメージの強さとそれぞれの違いに愕然としたそう。さらに、蛭川が意図するファミリーシアターは「親子で観る舞台」ではなく、そのずっと先の「演劇に興味をもち、観劇マナーを理解し、劇場を好きになる」までが射程範囲だ。コミックファンも納得し、世代を超えて楽しめ、同時に、他のエンターテインメントにはない演劇だけの魅力に触れてもらうこと。音楽劇『ガラスの仮面』が越えなければならないハードルは多く、ひとつひとつが高かった。蛭川は覚悟を決め、予定されていた続編はないと思って初日を迎えたという。

だが公演は、オーディションで選ばれた大和田美帆、奥村佳恵の若手、月影先生役の夏木マリの好演と相まって大成功だった。多くのコミックファンが絶賛し、原作者の美内すずえさんは何度も劇場に足を運び、

長く中断していた連載を再開させた。上演前の劇場を見学するバックステージツアーも好評で、定員はすぐに満員に。しかも、開演前から舞台上で劇団員役の役者たちがストレッチをしている横も通るツアーだったため、よりリアルに演劇の息づかいが感じられると好評だった。

今年の続編上演についてインタビューに応じた蛭川は、一昨年の舞台を「イチかバチか、やったことのない演出にいろいろ挑戦したんだよ。おおむね好意的に受け入れてもらえてよかった」と笑顔で振り返りつつ、「さらに多層的なものを目指す」と語った。それは、誰がどんな見方をしても、その人の年齢や人生経験、興味に呼応する真実が存在する作品をつくる、ということだ。とすれば、原作にあるドラマを、コミックならではの飛翔感は大事にしながら、より普遍的なものにしていく作業が必要になるだろう。幸い、脚本を手掛けるのは一昨年と同じ青木 豪。2度目となるふたりのタッグは、前回よりも強力になって作品に反映されるはず。「夏はさいたまの『ガラかめ』で、家族がそれぞれに感動する」が、いよいよ定着するかもしれない。

●●●● PLAY ●●●●

彩の国ファミリーシアター 音楽劇『ガラスの仮面2』(仮)

【日時】8月11日(水)~27日(金) 全20公演

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【原作】美内すずえ 【脚本】青木 豪 【演出】蛭川幸雄 【音楽】寺嶋民哉

【出演】大和田美帆 奥村佳恵・夏木マリ ほか

【チケット(税込)】一般:S席6,000円/A席4,000円
メンバーズ:S席5,400円/A席3,600円

【発売日】一般:6月5日(土) メンバーズ:5月22日(土)

8月	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
曜日	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
12:30																	
13:00																	
17:30							休演					休演					
19:00																	

Illustration: ©美内すずえ / 白泉社



まだまだ進化するバットシェバにひたる

イスラエルのダンスシーンの進化を担うオハッド・ナハリン率いるバットシェバ舞踊団が、再びさいたまにやってくる。

刻々と変化を遂げるオハッドの更なる飛躍ともいえる、『MAX マックス』(2007年初演)を上演する。

ダイナミックなダンスのエネルギーに満ち溢れる作品だ。

来日公演に先駆け、舞踊評論家・乗越たかお氏がイスラエルで行われるフェスティバル、
インターナショナル・エクスポージャーにてオハッド・ナハリンにインタビューを行った。



Interview Ohad Naharin

言葉の端々に意欲と自信をうかがわせる

取材・文=乗越たかお [作家・ヤサぐれ舞踊評論家]

——オハッド・ナハリンさんが芸術監督をしているバットシェバ舞踊団が4月に『MAX』を持って来日されますね。

前回の『テロファーザ』以来、2年ぶりの来日です。日本の観客の皆さんに私たちの作品を見ていただけるのはもちろん、個人的にも今回の来日を楽しみにしています。というのも、私のパートナーが日本人で、2009年9月に娘が生まれたので。

——おめでとうございます。父親となられて、なにか変わりましたか？

本質的な部分では変わりませんが、守るべき存在がいる、ということとは、やはり大きなことですね。私自身、社会や宇宙など、自分を取

り巻くものについて、以前にも増して考えるようになりました。「GAGA (ガガ)」という、私が開発した身体トレーニング法があるのですが、もともとはカンパニーのダンサー達が私の振り付けを踊る上で必要なことを学ぶトレーニングでした。いままでは一般の人が広く受けられるようにアレンジして、ワークショップを開催しています。身体の内部の感覚を探っていくものですが、単なる運動ではなく、身体と心をケアし、人生を豊かにする方法でもあります。かつて私も色々なトラブルに遭ったとき、エネルギーを与えてくれたのが GAGA でした。今は社会への恩返しとして GAGA を広めていきたいと思っています。

——今回の公演でもワークショップが予定されているようですね。

はい。日本でもワークショップはこれまでも「GAGA ジャパン」という有志が中心となって行われていますし、ぜひ参加してください。大切なのは自分自身の身体を「発見すること」です。4月に来日する『MAX』も、まさに「発見」の作品なんです。この作品では「私たちが考えて

いることと実際に起こることの間には大きなギャップがある」ということを示しています。動くことの悦びを通して宇宙の動きに接続する……そんなことが実感される作品です。

——本作品では、不意にそして完璧に動くダンサー達が、舞台の空気全体をふわりと動かして見えますね。「振付の領域」ということでいえば、この作品において、あなたはダンサーの身体のみならず、劇場の空間そのものを踊らせようとしているように見えます。

ありがとう。最近私は、舞台空間を宇宙のように感じているんです。たとえばダンサー同士が触れあうことなく踊るシーンを考えてください。それはちょうど夜空の星々が無数にあっても互いに触れあうことはないのと同じです。彼らは決して孤独なのではなく、互いに影響を与え合っているわけです。自分のいるべき場所にいれば、それでいい。真ん中にいる必要はないし、そもそも真ん中という概念自体が無意味なのですからね。

——『MAX』では、新たな魅力が堪能できますね。

作品に関して言えば、私はたくさんの「プレイ・グラウンド(仕事場/遊び場)」を持っています。それぞれに違ったルールがあり、たとえば運動的だったり、精緻さだったり、あるいは単純にパワーだけだったり様々です。たとえば初来日作品の『アナフェイス』などは特別な「プレイ・グラウンド」でしたが、数あるうちの一つに過ぎません。私はいつでも、「新鮮に何かに驚く気持ち」を大切にしています。それは人生における「瞬間のクオリティ」を高めてくれるからです。皆さんは『MAX』で、大いに驚くと思いますよ。リラックスして、舞台空間で起こることを楽しんでください。

Profile

オハッド・ナハリン Ohad Naharin

1952年イスラエル生まれ。20代から舞踊を始め、ダンサーとしてバットシェバ舞踊団で活躍の後、ジュリアード音楽院で学ぶ。80年に振付家としてデビュー。90年バットシェバ舞踊団の芸術監督に就任し、『キール』(90年)、『マプール(洪水)』の成功により評価を高める。97年の初来日公演では、当劇場にて『ジーナ』を上演、話題を呼んだ。彼の作品はネザールランド・ダンス・シアター、リヨン・オペラ座バレエ団など世界中の著名なバレエ団で踊られており、現在世界で最も注目される振付家の一人である。

●●●● DANCE ●●●●

バットシェバ舞踊団『MAX マックス』

【日時】4月15日(木) 開演 19:30 / 16日(金) 開演 19:30
17日(土) 開演 15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【振付】オハッド・ナハリン 【出演】バットシェバ舞踊団

【チケット(税込)】好評発売中

一般:S席6,000円/A席4,000円/学生A席3,000円
メンバーズ:S席5,400円/A席3,600円

GAGA ワークショップ

【日時】4月7日(火)、8日(水)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大練習室

【申込締切】4月1日(木) (※定員に達し次第締切)

【問合せ・申込先】

GAGA ジャパン office@gaga-japan.org www.gaga-japan.org/



稀代のアーティストがまたひとり、
彩の国でベールを脱ぐ

ホフェッシュ・シェクター

HOFESH SHECHTER

観ないことには始まらない。コアなダンスファンでも「ホフェッシュ・シェクター」という
彗星のごとくあらわれた若手振付家の名を知る人はそう多くはないだろう。
幕開き5分で観客をとりこにする、並外れたパワーとテクニックに満ちたダンスの
日本初公演を見届ける愉しみが、この公演にある。



写真(上) In your rooms© Ben Rudick
写真(下) Uprising© Andrew Lang

文=岩城京子 [フリーライター]

ホフェッシュ・シェクター。このどこか推理小説の暗号文めいた名前を耳にしたのは4年ほどまえ。ロンドン在住の友人に「凄いんだぜ、レイヴみたいな昂揚感のダンスをつくるやつがいるんだ」と聞いたのがはじめだった。とはいえそのときこの奇怪な名はそのまま記憶の彼方に葬られることに。パーティー好きで陽気なナポリ人に「レイヴみたいで凄いと薦められても、かなり失礼な話だが、いまひとつ芸術としてのクオリティに確証がもてない気がしたのだ。だからしばらくしてのち、その国籍不明な振付家の名をサドラーズ・ウェルズの公式サイトで見つけたときにはびっくりした。ああ、あのレイヴ兄ちゃんだ。あの、有名なサドラーズ・ウェルズでやるんだ。とはいえ、おもしろいかどうかはまた別の話。ただなぜかこのときは私のなかの芸術探知機が無自覚に作動した。観に行ったほうがいい、気がする。そして結果を先に述べるなら、この判断は間違っていないかった。シェクターの出世作とされる『Uprising / In your rooms』の



ダブルビル公演は、内向性と暴力性のあいだで揺らぐ現代人の感情的複雑さを、詩的でいて原始的なエネルギーに昇華し、思わず拳を振りあげたくなる圧巻のダンスを完成させていた。友人に心のなかで詫言を入れつつ彼の言葉を借りて語るなら、それはまごうことなき「芸術家のレイヴ」だった。

処女作でまたたくまに名を広める

現在ロンドン在住のシェクターは、イスラエル生まれの34歳。オハッド・ナハリン率いるバットシェバ舞踊団にダンサーとして参加してキャリアを開始すると同時に、バンドの打楽器奏者としても活躍の場を広げていく。のちパリに活動拠点を移し作曲活動を開始。そして02年にいざロンドンへ渡り、翌年、処女作『Fragments』を発表。これがまたたくまに玄人筋の注目を集め、その年ポーランドで開催されたセルジュ・ディアギレフ振付賞の最優秀賞に輝く。そしてさらに3年後に「七人の男たちによる野性的な哀歌」とも形容できる25分の小作『Uprising』を発表。振付、作曲、構成のすべてにおいてその才能の真性を証明してみせた。

『Uprising』の幕開け5分はじつに劇的だ。サドラーズ・ウェルズの客電が突然の停電のように落ちると、観客は、軍事工場に放りこまれたかのような律動的機械音に包まれる。そして音と闇の向こうから7人の

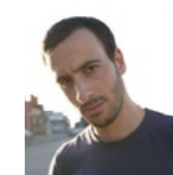
男性ダンサーたちが現れる。彼らは工場労働者のごときアグレッシブさで肩で風をきって前進し、舞台つらで横一列に整列、バレエのパスセのポーズで停止する。と、次の瞬間にはジャングルの野生動物のように上半身を脱力させ開放的に大胆に舞う。闇と光、静と動、緊張と弛緩、息を呑む対比のダイナミズムだ。そして観客は上演中、このシェクターの計算され尽くされた緩急のうねりに呑まれ、頭ではなく体全体をステージにさらわれることになる。

ライブ演奏でもりあがる原始的な律動感

この作品の成功を受けて、翌07年に発表したのが『In your rooms』。本作はロンドンにおける小中最大のダンスの殿堂、ザ・ブレイス(小)、サウスバンク・センター(中)、サドラーズ・ウェルズ(大)、が共同出資するという前代未聞の期待をかけられ制作された40分の作品。5人の女性ダンサー、6人の男性ダンサー、そして5人のライブ奏者(これら人数は劇場規模により可変)によって構成される本作は、前作『Uprising』と同じ高いエネルギーレベルを保ちながらも、よりパーソナルで内省的な情緒をつむぐ。シェクターが現代人の社会的ストレスを内観するナレーションが踊りにかぶさり、怒り、不安、温もり、ユーモア、暴力、皮肉、孤独、といった都会人の分裂症気質が身体上に美しく現れては消えていく。その背後にはシェクター作曲による、血湧き肉躍る祭儀を盛りあげるがごとき打楽器と弦楽器の音律が響く。オブザーバー紙は本作を評し「おそらくミレニアム以後、英国内で作られた最重要ダンス作品」と最大級の賛辞を送った。

きたる日本公演では5月にイギリスで発表される、できたての新作が上演される。おそらくこの若きアーティストの特徴である、職人的緻密さでデザインされた振付と、有無をいわさぬ原始的な律動感は失われることなく、終演後には、ホフェッシュ・シェクターという不思議な名が観客の脳裏に刻みつけられているはずだ。

Profile



©CarlFox

ホフェッシュ・シェクター Hofesh Shechter
イスラエル出身。ダンサー、振付家、作曲家。バットシェバ舞踊団にてダンサーとして活躍。同時に打楽器奏者としての訓練も受ける。2002年イギリスに移り、『Uprising』(06年)、『In your rooms』(07年)で一躍UKダンス・シーンの先導的地位を確立した。08年カンパニー結成。同年、英国ダンス批評家賞最優秀振付賞を受賞。サドラーズ・ウェルズ劇場(ロンドン) アソシエイト・アーティスト。ブライトン・ドーム(ブライトン)に創作の拠点を置く。

●●●● DANCE ●●●●

ホフェッシュ・シェクター

『Political Mother ポリティカル・マザー』

【日時】6月25日(金) 開演 19:30 / 26日(土) 開演 15:00
27日(日) 開演 15:00

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【振付】ホフェッシュ・シェクター 【出演】ホフェッシュ・シェクター・カンパニー

【チケット(税込)】

一般:S席5,000円/A席3,000円/学生A席2,000円

メンバーズ:S席4,500円/A席2,700円

【発売日】一般:3月27日(土) メンバーズ:3月21日(日)

dancetoday2010

ほとばしる才気の競演
期待度120%の作品がずらり

バットシェバ、ホフェッシュ・シェクターに加えて、今秋から来年初頭にかけての、彩の国のダンスシーンは見逃せない意欲的なパフォーマンスが揃った。いずれも圧倒的なダイナミズムで観る者の琴線に触れ、ダンス・パフォーマンスの魅力を存分に堪能できる作品ばかりだ。

Anne Teresa De Keersmaeker
+ Jérôme Bel + Ictus

Condors



dancetoday2010

無限のダンスへの可能性を探る

2009年に立ち上げたシリーズ<dancetoday>第二弾。ダンスとは身体による対話。dancetodayではそれぞれが身体のコミュニケーションのあり方を探り、ダンスのさらなる可能性を提案する。

dancetoday2010は2つの作品を上演する。1作品目は、伊藤郁女による『Island of no memories—記憶のない島』。フィリップ・ドゥクフレ、アンジュラン・プレルジョカージュ、シディ・ラルビ・シェルカウイなど世界的な振付家やアーティストの作品で頭角を現わし、同時に自らの振付作品でも目覚ましく才能を開花させている。国内外で発表される稀有な魅力溢れる作品には定評がある。本作品は2009年秋にフランスの振付コンクール、(ル)コネッセンスで一位を受賞した。日本での上演にあたっては、近年アメリカやセネガルでリサーチを行い、ベッシー賞も受賞しているダンサー・振付家の山崎広太を迎える。この新たな共演に期待が高まる。

アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル + ジェローム・ベル + アンサンブル・イクトゥス
『3Abschied ドライアップシート (3つの別れ)』(2010年2月初演)

おなじみローザスのアンヌ・テレサの新境地

ベルギー・ブリュッセルを拠点に長年にわたり画期的な創作で注目を集めてきたアンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル。ヨーロッパの先端ダンスシーンで注目を集めるジェローム・ベル。この2人が出会って創り出した新作『3Abschied』を上演する。この舞台ではマーラーの『大地の歌』(シェーンベルク編曲)をベルギーの現代音楽アンサンブル、イクトゥスが演奏し、女声独唱が重ねられる。『大地の歌』は唐詩をドイツの詩人が翻訳した詩集を元にマーラー自身が改変して作曲した交響曲。その第6楽章では、夕べの情景と友との別れが3つの部分から描かれ、侘しさや大地を讃える情感を伴わせている。『ザ・ショー・マスト・ゴー・オン』など身体表現に説明的な言葉を織り交ぜたコンセプチュアルな作品で知られるジェローム・ベルの演出とアンヌ・テレサの構築する動きとのバランスに期待したい。

コンドルズ 埼玉公演2011新作

彩の国でコンドルズ・パワー炸裂

ダンス・シーズンを締めくくるのは、常にパワー全開なエネルギーをほとばしらせ、おなじみの学ラン姿で熱い舞台を繰り広げ続けるコンドルズ。ゆるいコントで観客をニヤリとさせ、ファンタジックな影絵や人形劇、生演奏や映像とあらゆる手段で惹き込み、ロックな勢いで充満させる。とことんまで笑いと踊りが溢れる舞台。子どもも大人もあらゆる観客を虜にする彼らの疾走は止まらない。テレビ・ラジオやライブコンサート、映画と幅広い活動を展開するメンバーそれぞれが試みる、新しいコンビネーションも見どころの一つ。当劇場では、子どもと大人のための「日本昔ばなしのダンス」や2009年「障害者アートフェスティバル」のダンス公演でも振付やコーディネートをし、親しみ馴染んでいるコンドルズ。さいたままで創るさいたまのための5度目の公演、2011年1月新作!どうぞお楽しみに!

Profile

伊藤郁女 いとう かおり

クラシックバレエを高木俊徳に師事。ニューヨーク州立大学サニーバークダンス科に留学。フィリップ・ドゥクフレ『RIS』で主要なソロパートをつとめる。2008年には自作品『ノクティルック』をスイス、フランスなどで公演。09年シディ・ラルビ・シェルカウイ振付のオペラ『眠れる美女』(川端康成)主演。10年にはアラン・プラテル『アウト・オブ・コンセプト』に出演。自作品『Island of no memories』でフランスの振付コンクール、(ル)コネッセンス1位を受賞。

●●●● DANCE ●●●●

dancetoday2010

【日時】9月3日(金) / 4日(土) / 5日(日)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

【演目】『Island of no memories—記憶のない島』

【振付・演出】伊藤郁女 【出演】山崎広太 ミルカ・プロケンバ 伊藤郁女

※ほか1作品、出演者近日公開。

【発売日】6月中旬予定

Profile

アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル Anne Teresa De Keersmaeker

ローザス芸術監督。モーリス・ベジャールのムードラ(ブリュッセル)、ティッシュ・スクール・オブ・アート(NY)で学ぶ。1983年、ムードラで学んだ4人の女性ダンサーでローザスを結成し、『ローザス・ダンス・ローザス』でデビューを飾る。音楽と身体の関係を探求しつつ常に刺激的な作品を発表し続けている。04年細川俊夫作曲、大野和士指揮によるオペラ『班女』の演出を手がけた。『ドラミング』、『ツァイトトゥング』等これまでのさいたま公演はいずれも大きな反響を呼んだ。

●●●● DANCE ●●●●

アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル + ジェローム・ベル + アンサンブル・イクトゥス
『3Abschied ドライアップシート (3つの別れ)』

【日時】11月上旬予定 【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【コンセプト】アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル ジェローム・ベル

【出演】アンヌ・テレサ・ドゥ・ケースマイケル イクトゥス(音楽) ほか

【発売日】8月下旬予定

Profile

コンドルズ

コンドルズとは男性のみ学ラン姿でダンス・映像・コントなどを展開する舞台で人気のダンスカンパニー。20ヶ国以上で公演。ニューヨークタイムズ紙絶賛。渋谷公会堂公演即完。NHK総合『サラリーマンNEO』内「テレビサラリーマン体操」、NHK教育「からだであそぼ」、サントリーポス TVCM、NODA-MAP、劇団 EXILE などに振付出演。バンドプロジェクト・THE CONDORS は、日産 NOTE、カルピス健茶 TVCM にタイアップ! NHK総合「MUSIC JAPAN」などに出演!

●●●● DANCE ●●●●

コンドルズ 埼玉公演2011新作

【日時】2011年1月28日(金) / 29日(土) / 30日(日)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【構成・振付・出演】近藤良平 【出演】コンドルズ

【発売日】11月上旬予定

三者三様、花も実もある未来を見つめるピアニストの聴きくらべの妙

Vol. 13
Ayako Uehara

【曲目】 ショパン:ピアノ・ソナタ第2番 変ロ短調 作品35
ショパン:12の練習曲 作品25 ほか

上原彩子 うへはらあやこ (ピアノ)

3歳児のコースからヤマハ音楽教室に、1990年よりヤマハマスタークラスに在籍。多くのコンクールに入賞を果たし、2002年6月には、第12回チャイコフスキー国際コンクールピアノ部門において、女性として、日本人として史上初めての第一位を獲得。ゲルギエフ、インバル、ロストロポーヴィチ、ルイジ等国内外の巨匠と共演、高く評価されている。2008年第18回新日録音楽賞フレッシュアーティスト賞受賞。

© EMIミュージックジャパン

PIANO ÉTOILE SERIES 文=萩谷由喜子 [音楽評論家]

彩の国ならではの企画で、
毎回熱心なピアノ・ファンを魅了する
ピアノ・エトワール・シリーズ。
鋭、精鋭、新鋭が、その妙なる音色を披露する。

猫が鍵盤を歩いても音の出るのがピアノだからこそ、この楽器は名手に弾いてもらわなければ困る。ピアノ・リサイタルと銘打った催しに出かけた以上、ああ、今日は本物のピアノを聞いたな、という満足感をお土産に帰りたい。

この願いを高い確率で叶えてくれているピアノ・エトワール・シリーズの第13回～第15回に、上原彩子、アレクセイ・ゴルラッチ、エフゲニー・スドビンが登場すると知り、この3回の満足度も並々ならぬものになるかと確信した。

上原彩子が奏でる情熱と美音

まず、7月第13回の上原彩子。彼女を聴き始めたのは、彼女がまだ10代でヤマハマスタークラスのコンサートの常連だった頃だからかと思う。小柄な少女からとは信じ難い強靱なエネルギーと、ピアノの中に入っていくかのような桁外れの集中力に驚かされたものだ。只者ではないと思っていたら、果たして02年のチャイコフスキー・コンクールで、女性としても、日本人としても初のピアノ部門優勝者となって一躍世界にその名を轟かせた。このコンクールが飛躍の場となったため、デビューCD『グランド・ソナタ』以来ロシアものが彼女の十八番とみられがちだが、実際の彼女はたゆまざる勉強家で、レパートリーを着々と広げている。

つい先日(10年1月23日) 拝聴したサントリーホール・リサイタルでも、バッハを軸としてタネーエフ、ベートーヴェン、リスト、西村朗を綿密な関連の糸で結んだ頭腦的プログラムを披露してくれた。今回のエトワール・シリーズでは、ショパン・イヤーにちなみ《12の練習曲》作品25と「葬送ソナタ」をどんとメインに据えた潔いプログラムが予定されている。10代の頃と変わらないピアノへの炎のような情熱が、これと好対照をなすクリスタル質の美音と溶け合って、ほかの誰とも異なる彩子一流のショパンに昇華されることは間違いないだろう。

ゴルラッチでショパン・イヤーの聴きおさめ

12月第14回のアレクセイ・ゴルラッチは88年ウクライナのキエフ生まれ。05年のショパン・コンクールではセミ・ファイナリストとなり、06年浜松国際コンクールに優勝した。すでに国際舞台での経験も豊富だが、初々しい風貌そのままに、ピュアな感性と素直なピアニズムの持ち主だ。最近では09年11月12日に浜離宮朝日ホールで聴いた。それはベートー



Vol. 14 Alexej Gorlatch

【曲目】 ショパン:バラード第2番 へ長調 作品38
ショパン:舟歌 嬰へ長調 作品60
ショパン:スケルツォ第2番 変ロ短調 作品31
ショパン:4つのマズルカ 作品67
ショパン:4つのマズルカ 作品68
ショパン:ワルツ第10番 口短調 作品69-2
ショパン:幻想ポロネーズ 変イ長調 作品61 ほか

アレクセイ・ゴルラッチ Alexej Gorlatch (ピアノ)

1988年ウクライナ生まれ。ハノーファー音楽大学にてK.-H. ケマーリンクに師事。06年11月、第6回浜松国際ピアノコンクール第1位及び日本人作品最優秀演奏賞。これを機に一躍日本でその名を知られるようになる。彩の国さいたま芸術劇場には「ピアニスト100」シリーズに100人目のピアニストとして出演。09年にはダブリン国際ピアノコンクール第1位、リーズ国際ピアノコンクール第2位に入賞し、活動の場を広げている。

ヴェンの作品110、ドビュッシーの前奏曲集抜粋、ショパン《12の練習曲》作品10ほかというピアノ3大作曲家の聴きどころを集めたプログラムで、演奏は若者らしい覇気と清潔感にみち、じつに爽やかな印象を受けた。彼もこのエトワール・シリーズではオール・ショパン・プログラムを弾く。なんといっても、若いときにショパン・コンクール参加経験があるということはピアニストの一生の財産となるもので、彼のショパンの基礎もそのときに培われ、その後さらに研磨されている。しかも、この人の身上は、世間のアクに染まらぬみずみずしさにある。それはショパン演奏のひとつの大きな決め手となる要素といえるだろう。

聞き逃さない、スドビン日本デビュー

2011年1月の第15回を飾るエフゲニー・スドビンは、のちに『21世紀の代表的ピアニスト』という書物が書かれるとき、必ずとりあげられるひとりだ。実演は未聴だが、BIS からリリースされているデビュー盤のスカララッチ、その後のラフマニノフ、スクリャービンの録音を聴いて、世にこれほどのピアニストがいたのかとまさに驚愕した。上原彩子と同世代だが、上原とゴルラッチがメジャー・コンクール出身者であるのに対して、スドビンの場合はコンクール歴もあるものの、レコード・デビューによって世のピアノ・ファンを瞠目させ、それを機に国際舞台での活躍の場を広げる、というキャリアの築き方をしてきたピアニスト。録音を聴くと、選曲にもテクニックにも全盛期のホロヴィッツを思わせるものがあり、なんと頼もしい若者が出てきてくれたことかと嬉しくなった。日本デビューとなるエトワール・シリーズ第15回では、ハイドン、ショパン、ラフマニノフ、メトネル、スクリャービンを予定。すでに録音で実証済みのロシアものも楽しみだが、ハイドンとショパンも、あっと驚く新鮮な演奏が聴けそうだ。

Vol. 15
Yevgeny Sudbin

【曲目】 ハイドン:アンダンテと変奏曲 へ短調 作品83 Hob.XVII-6
ショパン:幻想曲 へ短調 作品49
ショスタコーヴィチ:(24の前奏曲) 作品49より
ラフマニノフ:前奏曲 ト短調 作品23-5
ラフマニノフ:前奏曲 ト長調 作品32-5
ラフマニノフ:前奏曲 嬰ト短調 作品32-12
ラフマニノフ:前奏曲 へ短調 作品32-6
メトネル:ピアノ・ソナタ ハ短調「悲劇的」
(忘れられた調 第2集)より
スクリャービン:ピアノ・ソナタ第5番

エフゲニー・スドビン Yevgeny Sudbin (ピアノ)

1980年サントペテルブルク生まれ。同地のほか、ベルリン、ロンドンで研鑽を積む。2005年のCDデビュー(スカララッチ作品)で圧倒的な賞賛を浴び、活躍の場を広げる。BISレーベルからリリースしている録音とともに、その演奏は主要音楽誌・新聞等で高く評価されており、今年は欧米各地でのリサイタルの他、T. ソヒエフ指揮フィルハーモニア管や、O. ヴァンスカ指揮ミネソタ管弦楽団などとの共演を予定している。

●●●● MUSIC ●●●●

Vol.13 上原彩子

【日時】 7月10日(土) 開演 15:00

【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【1回券発売日】 一般:3月20日(土) メンバース:発売中

Vol.14 アレクセイ・ゴルラッチ

【日時】 12月5日(日) 開演 15:00

【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【1回券発売日】 一般:7月10日(土) メンバース:7月3日(土)

Vol.15 エフゲニー・スドビン

【日時】 2011年1月22日(土) 開演 15:00

【会場】 彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

【1回券発売日】 一般:9月4日(土) メンバース:8月28日(土)

【チケット(税込)】

3回セット券 正面席9,000円/バルコニー席7,500円 好評発売中
1回券 一般:正面席3,500円/バルコニー席2,500円
学生席(バルコニー席)1,000円
メンバース:正面席3,150円

アルミンクと新日本フィルで堪能する クラシックの奥深さと、聴く喜び



© K. Miura

Christian Arming & New Japan Philharmonic
With Shion Minami



© Kiyotaka Saito

この夏の埼玉会館のコンサートではモーツァルトとベートーヴェンの名曲が、あなたの心根をゆさぶります。

おなじみの歌劇《ドン・ジョヴァンニ》、そして「英雄」、

この名曲の素晴らしさを再認識する格好のコンサート。

若手実力派のヴァイオリニスト、南 紫音の妙なる響きにも注目です。

文=片桐卓也 [音楽ライター]

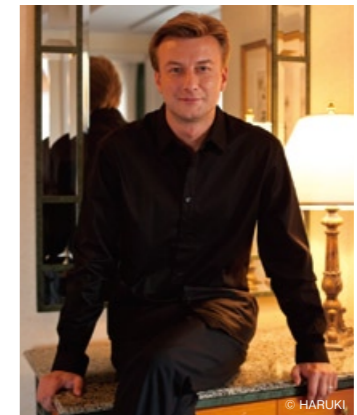
モーツァルトやベートーヴェンが活躍していた18世紀末から19世紀初頭は、ヨーロッパは激動の時代だった。フランス革命が1789年に始まり、ナポレオンが台頭してくる。ナポレオンはフランス革命の精神をヨーロッパ全土に広めるべく、ハプスブルク家の支配する北イタリアやオーストリア、そして北の大国ロシアに攻め入る。もちろんウィーンもフランス軍に何度か占領された。さらに言えば、ヨーロッパの東側にはオスマン・トルコという大帝国有存在していて、16世紀から17世紀にかけてウィーンが包囲されたこともある。それが逆にウィーン市民の間にトルコ文化への関心を生み、特に「トルコ行進曲」に代表されるようなトルコ音楽の流行へとつながっていった。

ウィーン出身の若手指揮者クリスティアン・アルミンク(1971年生まれ)は、新日本フィルハーモニー交響楽団の演奏会のたびに、そうした歴史的な関心を呼び起こしてくれる。ひとつひとつの演奏会のテーマが非常にはっきりしているのだ。今回はモーツァルトとベートーヴェンだが、おそらく演奏会前のプレトークでは、そんな歴史的な話題も登場してくるのではないだろうか、と期待している。

埼玉会館での演奏会はモーツァルトの歌劇《ドン・ジョヴァンニ》序曲で始まり、彼の第5番のヴァイオリン協奏曲、そして後半はベートーヴェンの交響曲第3番「英雄」となる。この中でいちばん「古い」のがモーツァルトのヴァイオリン協奏曲第5番で1775年の作曲。モーツァルトはまだ10代であった。《ドン・ジョヴァンニ》は1787年、そしてベートーヴェンの「英雄」は1805年の初演である。ほぼ30年の間に作曲された作品が並んでいることになる。

しかし、その音楽的な内容にはひじょうに大きな違いがある。それは作曲家の個性というよりも時代の違いだろう。モーツァルトは政情不安なヨーロッパの状況を知っていたが、その波を受ける前に若くして亡くなった。ベートーヴェンはフランス革命とナポレオンの台頭の時代に、親しい貴族がナポレオンとの闘いで亡くなったり、また経済的な苦境に陥っていくのを目の当たりにした。そんな時代環境の違いが、二人の音楽に大きく影響しているのは間違いない。

アルミンクの指揮は常に音楽に寄り添って、その姿をくっきりと浮かび上がらせる。今回の演奏会では、特に大曲である「英雄」を取り上げるので、作曲当時としては異様に長く巨大であったこの斬新な交響曲を、その当時の驚きのままに再現してくれるだろう。またモーツァルトのヴァイオリン協奏曲では、16歳で世界的なコンクールとして名高いロン＝ティボー国際コンクールで第2位となった南紫音が共演する。彼女はまだ20歳になったばかりで、大学生として研鑽を積み毎日だが、これまでにスペインのビルバオ交響楽団の来日公演のソリストに抜擢されるなど、若手ヴァイオリニストとして注目を集めている。年々その音楽性も豊かに成長していて、今回アルミンクとの共演でもフレッシュな音楽性を披露してくれるはずだ。その演奏者たちに導かれて、ヨーロッパへの歴史旅行を楽しみたい。



© HARUKI

message
クリスティアン・アルミンク

会場でお会いしましょう

ウィーン古典音楽の本当に素晴らしい作品を演奏できることをとても楽しみにしています。ベートーヴェンの「英雄」は有名な作品というだけでなく、その後の音楽史にとって画期的な作品です。ベートーヴェンは息をのむ程の発明をこの作品でもたらしめました。スリリングなハーモニー、構成、葬送行進曲などです。この作品を言葉にするなら「凄まじいまでの情念と体験」です。この他にモーツァルトの作品で、「英雄」の「ナポレオン」と同様魅力的な人物を扱った《ドン・ジョヴァンニ》序曲、才能あるヴァイオリニスト、南紫音さん独奏の協奏曲第5番を演奏します。皆さんとコンサートでお会いすることが出来、信じられない程の感情と感覚を得る喜びに浴して頂ければ幸いです。

Profile

クリスティアン・アルミンク Christian Arming (指揮)

ウィーン生まれ。ヤナーチェク・フィル首席指揮者、ルツェルン歌劇場音楽監督及びブルツェルン管首席指揮者を経て、03年9月より新日本フィル音楽監督。近年ではミュンヘン・フィル、ドレスデン・シュターツカペレ、ウィーン響、カメラータ・ザルツブルク、シュトゥットガルト放送響、ハンブルク響、トウールーズ・キャピトル管、イタリア放送響、ミラノ・ヴェルディ響、ヴァンクーヴァー響等にも客演。

南 紫音 みなみしおん (ヴァイオリン)

1989年北九州市生まれ。3歳よりヴァイオリンを始め、篠崎永育、篠崎美樹、西和田ゆう、原田幸一郎の各氏に師事。現在、桐朋学園大学在学中。2004年、アルベルトクルチ国際ヴァイオリンコンクール(イタリア・ナポリ)で僅か15歳にして優勝。05年10月、ロン・ティボー国際音楽コンクール第2位・サセム賞受賞。08年、ユニバーサルミュージックの新レーベル「UCJ ジャパン」の第一弾アーティストとしてCDデビュー。

新日本フィルハーモニー交響楽団 (管弦楽)

1972年指揮者・小澤征爾のもと楽員による自主運営のオーケストラとして創立。97年すみだトリフォニーホールを本拠地とし定期演奏会の他、地域に根ざした演奏活動も特徴。2003年クリスティアン・アルミンクが音楽監督に就任。06年第3回三菱信託音楽賞奨励賞受賞。09年「ハイドン・プロジェクト」(F.ブリュッヘン指揮)で絶賛を博す。2010-11シーズンよりダニエル・ハーディングが指揮者陣に加入。

●●●● MUSIC ●●●●

新日本フィルハーモニー交響楽団

【日時】7月18日(日) 開演 15:00

(指揮者によるプレコンサート・トーク 14:30 ~ 14:45)

【会場】埼玉会館 大ホール

【出演】クリスティアン・アルミンク(指揮) 南 紫音(ヴァイオリン)

【曲目】モーツァルト:ヴァイオリン協奏曲 第5番「トルコ風」*

ベートーヴェン:交響曲第3番「英雄」ほか

*出演者の都合により、当初告知していた曲目より変更させていただきます。ご了承くださいませようお願い申し上げます。

【チケット(税込)】好評発売中

一般:S席6,000円/A席5,000円/B席4,000円/学生B席2,000円

メンバーズ:S席5,400円/A席4,500円/B席3,600円

EVENT CALENDAR 2010.3.15-2010.5.31

Event calendar table for March and April. Includes dates, days of the week, event titles (e.g., 'PLAY 彩の国シェイクスピア・シリーズ第22弾'), and performance times.

Event calendar table for May. Includes dates, days of the week, event titles (e.g., 'MUSIC 埼玉会館ファミリー・コンサート'), and performance times.

3才以上のお子さんから楽しんでいただける公演です。光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

前売りチケット発売情報(～2010.5.15)

MUSIC ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.13 上原彩子

チケット発売日 一般:3月20日(土) ※メンバーズ発売中 詳細はP.16～17にて

DANCE ホフェッシュ・シェクター 『Political Mother ポリティカル・マザー』

チケット発売日 一般:3月27日(土) メンバーズ:3月21日(日) 詳細はP.12～13にて

MUSIC SOUND SPACE EXPERIMENT Steel Drum Works



当劇場のダンス公演から生まれたドラム缶と各種打楽器が主役のライブ・エンターテインメント。

チケット発売日 一般:4月1日(木) メンバーズ:3月27日(土)

日時=6月3日(木)、4日(金) 各日開演19:30 会場=彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

MUSIC 熊谷会館ファミリー・クラシック 夏休みオーケストラ!



毎年好評の、家族で楽しめるオーケストラ公演。今年のメインはラヴェルのボレロ!

チケット発売日 一般:4月3日(土) メンバーズ:3月27日(土)

日時=8月8日(日) 開演15:00 会場=熊谷会館 出演=飯森範親(指揮) 朝岡 聡(ナビゲーター) 山根一仁(ヴァイオリン)

MUSIC 小曾根 真の現在 Vol.1 ソロ×デュオ with 児玉 桃



世界のOZONE、彩の国で新シリーズを開始! 第1弾は児玉 桃とのコラボレーション。

チケット発売日 一般:4月3日(土) メンバーズ:3月27日(土)

日時=9月4日(土) 開演15:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

財団チケットセンター

0570-064-939

10:00～19:00(休館日を除く) ※一部携帯電話、PHS、IP電話からは受付できません。

PLAY

彩の国さいたま寄席 四季彩亭 ～彩の国落語大賞受賞者の会 三遊亭歌奴

夏の四季彩亭は、平成21年度彩の国落語大賞を見事受賞した三遊亭歌奴の会。ゲストは爆笑王・三遊亭圓歌。どうぞお楽しみに。



チケット発売日 一般:4月18日(日) メンバーズ:4月10日(土)

日時=7月11日(日) 開演14:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

MUSIC

エマニュエル・パユ(フルート)&クリスティアン・リヴェ(ギター)



世界のトップ・フルーティスト パユと、パユの信頼篤いギタリストリヴェが紡ぎ出す至福の時間。

チケット発売日 一般:4月29日(木・祝)

メンバーズ:4月24日(土)

日時=10月24日(日) 開演15:00 会場=彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

PLAY

松竹大歌舞伎



熊谷の夏の風物詩「松竹大歌舞伎」が今年もやってきます。人気の演目を中心に、出演は現代歌舞伎を代表する立役、松本幸四郎ほか。どうぞお楽しみに。

チケット発売日 一般:5月9日(日) メンバーズ:5月6日(木)

日時=7月15日(木) 昼の部13:00 夜の部17:00 会場=熊谷会館 出演=松本幸四郎 ほか

MUSIC

埼玉会館ランチタイム・コンサート第11回 N響メンバーによる木管五重奏



お昼のひととき、気軽に楽しむクラシック。今回はN響メンバーが登場。

チケット発売日 一般:5月15日(土) メンバーズ:5月8日(土)

日時=8月31日(火) 開演12:10(終演予定13:00) 会場=埼玉会館 大ホール

【窓口販売】※休館日を除く 彩の国さいたま芸術劇場 10:00～19:00

【インターネット販売】 財団ホームページ http://www.saf.or.jp

■サポーター会員

(財) 埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、蛭川幸雄芸術監督のもと、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのが(財) 埼玉県芸術文化振興財団サポーター会員の皆様方です。

(株) 与野フードセンター / (株) 亀屋 / 武州ガス(株) / (株) 松本商会 / (有) 香山壽夫建築研究所 / 埼玉新聞社 / (株) テレビ埼玉ミュージック / 埼玉りそな銀行
(株) パシフィックアートセンター / アサヒ印刷(株) / FM NACK5 / 東京電力(株) 埼玉支店 / 東京ガス(株) / カヤバ システム マシナリー(株) / (株) タムロン
(株) 十萬石ふくさや / 森平舞台機構(株) / 日本データコム(株) / (株) ビルメン / 東芝ライテック(株) / 埼玉トヨタ自動車(株) / (有) 齋賀設計工務
ゲレッツ・ジャパン・スズゼン(株) / 武蔵野銀行 / 浦和ロイヤルパインズホテル / (株) アルピーノ / 国際照明(株) / (株) サイサン 会長 川本宜彦 / 三国コカ・コーラボトリング(株)
(株) ショーモン / 埼玉スバル自動車(株) / (株) 東玉 / 桶本興業(株) / (株) 佐伯紙工所 / (株) 太陽商工 / (株) しまむら / アイジャパン(株) / (有) 六辻ゴルフセンター
不動産(株) / ビストロ やま / ホッカイエムアイシー(株) / 埼玉縣信用金庫 / (株) 栗原運輸 / 彩の国SPグループ / (有) プラネット / 関東自動車(株) / 日本ピストンリング(株)
(株) クマクラ / (株) デサン / (株) 中島運輸 / (株) 国際ビジネス研究所 / セントラル自動車技研(株) / (株) アズマン / 太平洋セメント(株) / (株) ピー・アンド・イー・ディレクションズ
丸美屋食品工業(株) / 日立キャピタル(株) / ボラスグループ / ひがし歯科 / (株) 日産サテオ埼玉 / 埼玉トヨペット(株) / 公認会計士 宮原敏夫事務所 / (株) 価値総合研究所
(株) 埼玉交通 / (株) 東和銀行 / 医療法人 顕正会 蓮田病院 / (株) ウイズネットサイデン化学(株) / アイル・コーポレーション(株) / 五光印刷(株) / 旭ビル管理(株)
ヤマハサウンドシステム(株) / (株) エヌテックサービス / (株) クリーン工房 / (株) つばめタクシー / (株) サンワックス / (株) 総合舞台 / (株) タクトコーポレーション
H22.2.15現在 / 一部未掲載

【問合せ先】(財) 埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507

劇場に遊ぶ、劇場で出会う

第6回 【大ホール】

劇場のおおもとは、古代ギリシャの野外劇場の階段状の観客席を指すテatron (theatron) が語源で、そこから英語のシアター (英theatre、米theater) が生まれました。古代ギリシャの劇場が病院と同じように人の心を癒すものという話を聞いたことがあるが、現代の劇場もまさに同じ。彩の国さいたま芸術劇場の顔、大ホールは、観る人の立場になり、そして演じる側の使い勝手を考慮した理想的なホールである。

列柱にガラスブロックで囲まれた円形広場ロトンダの一角にある正面入口を入ると、そこは日常から離れた異空間。広い1階のロビーで談笑する人々、2階にもバルコニースタイルのロビーが広がり、これから出会う舞台に思いをはせる。

ホールに入ると、左右の1階2階のバルコニー席、正面2階席と合わせて776の座席。なんだかとても温かい気持ちになれるのは、周りを飾る格子状に編まれた木のせいだろうか。プロセニウム型(舞台の両袖にある柱がある、額縁舞台のこと)の舞台だが、きっちり囲まれたという印象は薄い、自由なイメージ。そして舞台に立ってみると、最後部の客席までの距離もそれほど遠いとは感じられず、肉声が届く

ほどよい大きさ。

そして特筆すべきは舞台面の広さだ。「主舞台」と呼ばれる、ふだん観客が見る舞台面の奥に主舞台と同じ広さの「後舞台」があり、スライディング式に

なっているので、ダイナミックにセットの移動ができる。さらに上手(客席から見て右手)側にももう一面、主舞台と同じスペースがとられている。また、舞台前面に張り出し舞台を設けることも可能で、これにより、さらに臨場感あふれる舞台が展開される。

観終わって、心が動かされ、また心打たれ、そして元気になり、おおいに人生を考える、そんな様々な感情に満ちた劇場。大ホールはまさに人間らしさが行き交う、出会いの場でもある。

